



今年度もよろしくお願ひします。

2024 年度最初のグローバル通信をお届けします。中学1年生はご入学おめでとうございます。中2より上の在校生諸君も学年が一つ上がりそれぞれの目標に向かって頑張ろうという気持ちで燃えていることと思います。グローバル教育部は帰国生支援、本校主催の海外研修・短期留学の運営、高校在学中個人で留学する場合の相談、海外大学出願支援などを担当する部署です。2号館2階に小さな職員室がありますので何か相談がある場合には訪ねてきて下さい。職員室には岡崎(英語科・研究日は火曜)、大平(英語科・研究日は月曜)、山口(英語科・研究日は火曜)の3名が常駐しています。但し授業や会議などで席を外している時間もありますので大切な用件の場合は一度来室の上、時間調整をしてからの方が確実かもしれません。

今年度より海外大学進学ガイダンスカウンセラーが就任します。

「ウェブでお知らせ」を通じて既にご案内しましたが、今年度より海外大学進学相談室が2号館1階(保健室の向かい側)に開設されます。ガイダンスカウンセラーの中山莉彩先生が相談に応じて下さいます。ご自身もアメリカの大学で学ばれたご経験があり、海外事情にも明るい先生です。中山先生の勤務は4月19日(木)が初回となり、月曜日と木曜日を基本とし、週にもう一日、火曜日・金曜日・土曜日のいずれかの日という形になります。相談室の利用は中山先生に直接アポイントを取る形になります。希望する場合は nakayama.risa@kaijo.ed.jp に直接メールをしてください。

ご相談内容によってグローバル教育部、海外大学進学相談室のどちらに行ったらよいのかお困りになるかもしれません。いくつか事例をお示しします。必要に応じて担任、学年、教務部、事務室などと連携して取り組んでまいります。

グローバル教育部へお声がけ下さい。

ケース1

中高を問わず在学中に保護者の海外転勤が決まり、本校から現地の学校に学籍が変更になるに当たり、出発前に校内でどんな手続きを取ったらよいのか知りたい。

ケース2

高校生で外部団体を通じて1年留学に行くことになり、団体から英文の成績証明書や推薦書が必要だと言われたがどのように用意したらよいのか知りたい。

ケース3

高校3年生で海外大学を受験することを志しており外部団体が主催する奨学金プログラムに応募するのに必要書類は学校を通じて提出しなければならないがどうしたらよいのか知りたい。

ケース 4

高校3年生で海外大学を受験することを志しており、数名の先生から推薦書を書いていただく必要があるが、どのように準備したらよいかを知りたい。

海外大学進学相談室へお声がけ下さい。

ケース 1

海外大学を目指すかまだ漠然とした状態だが、仮に海外大を目指すとなると具体的にどのような準備が必要になるのかを知りたい。

ケース 2

アメリカで「リベラルアーツ」と呼ばれる大学があると聞いたがどんなことが学べるのかを知りたい。

ケース 3

自分が専攻したいと思っている学問分野（気候変動、貧困対策、災害支援など）が日本の大学に設置されている学部では十分に学べないような場合、海外ならどのような大学で学ぶのがふさわしいのかを知りたい。

ケース 4

海外大学で学ぶには学費が高額と聞いたが日本を拠点とする財団によって運営される奨学金以外にどのような可能性があるのかを知りたい。

2023年度の本校海外大学受験結果

2024年3月の卒業生からは3名の生徒諸君が日本の大学受験と並行しながらアメリカの大学受験に挑戦をしました。本号発行段階でまだ補欠待ちの状態も含まれるため、最終確定ではありませんが、結果をお知らせします。カッコ内の数字は合格人数を指します。

Columbia University

Indiana University Bloomington

Massachusetts Institute of Technology

Michigan State University

University of California, Irvine

University of California, San Diego (3)

University of Illinois, Urbana-Champaign

University of North Carolina at Chapel Hill

University of Washington (2)

3名の中には帰国生という経歴ではなく日本でずっと教育を受けてきた生徒もおります。そのようなバックグラウンドでも本人の頑張り次第で結果を出せることを見事に示してくれました。3名とも自分の希望する大学から合格をもらい、9月からの新学期に向けて準備を進めています。

専攻を考えるシリーズ・ウェビナーのお知らせ（中1～高3及び保護者 無料）

以前から何度かご紹介している海外大学でどんなことが学べるかを知るオンラインイベントのご紹介です。9回目となる今回は「スポーツマネージメント」がテーマとなります。スポーツと財政の関連について興味深いお話が聞けそうです。参加は無料ですが、事前申込が必要となります。申込は各自でお願いします。

日時：4月24日（水）

スポーツマネージメント特別講義（英語） 18：00～18：30（日本時間）

質疑応答（英語・日本語） 18：30～18：45

対象：中1～高3生徒及び保護者

講師：アンドリュー・ジェンキン博士（イギリス スターリング大学）

開催方式：ZOOM ウェビナー 申し込み後にリンクが送られます。

主催：UPAA (University Partnerships for Alternative Admissions) Japan

海外協定大学推薦制度というのがあり、本校も加盟しております。

申し込み：以下のリンクより事前に登録をお願いします。

https://zoom.us/webinar/register/5017122156476/WN_wJ1IA3dqSeSXJFysxndLrQ#/registration



スポーツの商業化が急速に進んでいるにもかかわらず、スポーツ組織のマネジャーの財務に関する知識やスキルには多くの差があります。現代のスポーツマネージメントにもっともよく見受けられる特徴のひとつは、財務や資金調達に関するトレーニングや経験が限られていることです。金銭がスポーツの根幹を形成していることが多い現在、スポーツ・マネジャーはもはや金銭的無責任や金銭音痴では活動できません。最もプロ化されたリーグ（例えばイングランド・プレミアリーグ）においても、負債が資産の2倍近くあるような、専門的に言えば債務超過で破綻寸前に陥っているクラブは数多く存在します。（UPAA 公式ホームページより転載）

高校カナダ短期留学レポート

高1・高2を対象とした本校カナダ短期留学プログラムが1月から3月まで実施され5名の生徒が参加しました。このプログラムはアルバータ州のエドモントンを舞台に実施され、ホームステイをしながら現地の2ヶ所の高校に分かれて通学するものです。今号から数回に分けて参加生徒から寄せてもらった感想を掲載します。今年度参加を検討している生徒諸君は参考にさせていただくと幸いです。

カナダでの10週を終えて

5年6組 竹内 優太郎

私は10週間、カナダ・アルバータ州 Leduc という街に留学し、様々な経験をする事ができた。これらは、日本では絶対にできない経験であり、私にとって一生の財産となると思う。

最初に感じた事は、やはり寒いということであった。最も低い時にはマイナス50度の気温となり、髪の毛や鼻毛が凍るなど、日本では想像できない寒さだった。

学校は私にとって多くの発見の連続であった。生徒は身長や体格、髪色など本当に多種多様で、人種もアジア系、ヨーロッパ系、アフリカ系など様々であった。また、現地の生徒はとても優しく、ひよっとしたことからどんどん友達ができる。例えば、運動不足解消のために行っていたジムでは、「お前、学校にいたよな？友達になろうぜ！」と話しかけてくれた子がいて、すぐ友達ができる。また、日本でジムの経験がゼロだった私に、友達が一から器械の使い方を教えてくれた。間違っても「違うよ！」と優しく教えてくれて、うまく行ったら、"good job!" と、褒めてくれた。ジムのスタッフとも仲良くなることができ、放課後に友達と一緒にジムに行くことがとても楽しみになっていた。

授業は日本と違って選択制であり、私は社会、理科、金融、料理の授業をとった。どの科目も日本語に翻訳してから内容を理解する、という二度の手間が必要であり、課題やテストもあって大変だったが現地の友達に助けをもらいながら乗り越えることができた。また驚いたのは、授業中にスマホをいじったり、途中で退出したりしても何も言われないということである。最初はそれで授業が成立するのか、と思ったが、カナダでは日本よりも自由が多い分、それに対する個人の責任も負うのだなと感じた。



また、カナダ留学が楽しく有意義なものとなったのはホストファミリーのおかげが大きかったと思う。ホストペアレンツは優しく、いつでも学校の相談に乗ってくれたり、いろいろな場所に連れて行ってくれたりした。ホストブラザーやシスターと、家の中でかくれんぼやゲームなどで遊んだことも楽しかった。

また、英語に囲まれた生活の中で、私の英語能力を向上させることができたと思う。最初は相手に伝わらなかつたり、聞き取れなかつたりしていたが、少しずつわかるようになり、最終的に友達と英語で様々な会話ができた時は、とても嬉しかった。伝わらないことを恐れて話さないよりも、勇気を持って話しかけていくことが大事なのだろうなと思った。

10週間は、行く前は長いと思っていたが、実際は私が思っていた以上にあつという間であった。学校最終日には親しくなった何人かの友達がメッセージカードやプレゼントをくれて、寂しい気持ちや悲しい気持ちで泣きそうになった。またいつか、現地ですでできた友達と会いたいと思う。そして、今回の留学で得た経験や学んだことをこれからの人生に活かしていきたいと思う。

The priceless experience in Canada

5年8組 深谷 慶太郎

今回のカナダ留学では当初の想像を遥かに超える貴重な経験をすることができました。私は渡航前に10週間の目標をいくつか掲げました。それは「実践的な英会話力」と「とにかく全力で楽しむこと」でした。私は何年か前から、「生きた英会話ができるようになりたい、海外での生活を体験してみたい」という願望があったので、ネイティブの様には勿論なれないものの私の頑張り次第では短い期間でも英語力を上げられると信じて今回の留学に臨みました。また、そのためには引きこもっていたら英語力を上げることは難しいと思ったので、折角の機会である今回の留学を全力で楽しもうと思いました。

結論から言うと、今回の留学は大成功だったと思います。なぜなら全力で楽しむことができ、そのおかげで実践的な英語力もかなり向上したからです。2週間目の演劇のクラスで2人の女子生徒と知り合ったのですが、最初はそれほど親しくありませんでした。しかし新学期が始まってから日本人は皆別々だったので1人の時間が多く、このままでは貴重な留学時間が勿体無いと思い、勇気を振り絞って先程の女子生徒と一緒に昼食を食べようと声をかけたら「sure!」と快諾してくれました。この日から毎日彼女達と昼食を食べていたのですが、現地の高校生の話す英語はとても速く最初は彼女達の英語についていくのは難しく疎外感を感じていました。しかし、辛抱強く彼女達と一



緒にいたことで、8週間目頃には英語力も上がって、お互いのプライベートの話などを長く会話を続けられるようになり、それに伴って彼女達と距離も縮まり、週末や放課後には様々な場所で一緒に遊びました。自ら切り開いた友人関係だったのもあり彼女達との時間は本当に忘れられないものになりましたし、日本からきた英語勉強中の私を受け入れてくれた彼女達には本当に感謝したいと思います。不安を恐れず自分から行動を起こすことができた事で良い結果となったこの経験は私の自信にもつながり、今後にも活かされると思います。